

## 令和6年度開校記念式 式辞

木々の若葉が芽吹き春爛漫のこの良き日に柄沢高男同窓会長様、同窓生の黛若葉様のご臨席を賜り、群馬県立榛名高等学校開校記念式を挙げて下さることを心より御礼申し上げます。

本校は今年で84周年を迎えました。ここで本校の歩みをお話しします。

『榛名高校八十周年誌』によれば、以前からこの地域に女子実業教育機関を創立したいという強い願いがありました。当時はこの地域を室田町といいました。昭和10年9月の台風で400ミリを超す豪雨により烏川が氾濫して、室田町だけで死者39名、56戸の家屋が全半壊する災害に見舞われました。室田町は災害からの復興のため多くの時間と資金をつぎ込まざるを得ず、本校の開校計画は遅れました。その後、宮下貞三町長をはじめ多くの方々のご尽力により、昭和15年4月室田町立群馬県室田高等実践女学校として開校しました。本校の創立は、当時の室田町の方々の大きな期待に満ちたものでした。

ところが喜びもつかの間、開校の翌年には太平洋戦争に突入しました。日々の授業は戦時色が濃くなり、体操の授業は軍事教練となりました。また、勤労奉仕として木炭の背負いだし、麻の皮はぎ、草刈りや稲刈りなど、地域の貴重な労働力として生徒の力が必要とされる、そんな時代でもありました。

一方、昭和18年3月には第一回卒業式が挙行され、72名の卒業生を送り出しました。また、同窓会が発足し、その第一歩を歩み始めました。戦争が激しくなる昭和19年には、学徒動員の命により校舎で学ぶことはできず、生徒は中島飛行機桐生工場で特攻機の製造に携わり、先生は大勢の方々が戦地へ出向かれたとの記録がありました。命がけのご苦勞を重ねながら、先輩方が榛名高校での生活を過ごしていたことを後を継ぐ私達も忘れることはできません。

終戦間もなく、昭和21年には5年制の室田町立室田高等女学校と改称し、昭和22年には県立に移管、男女共学化され、群馬県立室田高等学校となりました。昭和30年には、町村合併に伴って校名変更により、群馬県立榛名高等学校となり現在に至ります。

開校70周年にあたる平成22年には「ぐんまチャレンジ・ハイスクール」の指定を受け、現在につながる特色ある教育課程を導入しました。「活気あふれる小さな学校 あつとほ一む榛高」のスローガンのもと、本校では生徒が社会で活躍する人材として成長できるよう、生活力や人間力の育成に取り組んでおります。

これまでの卒業生は1万2000名以上を数え、政治・経済・芸術・スポーツ・教育など各方面でご活躍されています。そのお姿は、我々本校関係者の誇りであるとともに、大きな励みであります。昨年プロ野球日本シリーズでも活躍したオリックス・バファローズ、安達一選手も卒業生の一人です。彼の難病を抱えながらも前向きに野球に取り組む姿に大変勇気づけられております。

生徒の皆さんは、これまで歩いて来られた諸先輩方のご苦勞やご努力に思いをはせ、本校での3年間が実り多き時間となるよう切磋琢磨し、力をつけてください。高校生という最も可能性に満ちたこの時期を将来の自分の糧となるようなそんな時間にしてください。

木々が若葉を伸ばし日一日と成長を続けるように、皆さんも自己実現を目標に日一日を大切に成長を続けてほしいと思います。榛名高等学校が今後も90周年、100周

年と発展を続けるため、生徒と職員が一丸となって努力してまいりたいと存じます。

結びに、創立から今日に至るまでの諸先輩方のご尽力に対し感謝申し上げます。本日、ご臨席の皆様には、今後とも本校へのご支援とご鞭撻をお願い申し上げますとともに、皆様のご多幸を祈念申し上げ、式辞といたします。

令和6年4月19日

群馬県立榛名高等学校 校長 天田 徹也